

26年6月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 5月20日～ 26年6月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/6月	7月	8月
仕入 動向	国産材製材品	△ 18.8	△ 6.3	0.0
	外材製材品	0.0	△ 6.3	△ 6.3
	構造用集成材	0.0	0.0	△ 7.1
消費 動向	国産材製材品	0.0	0.0	△ 12.5
	外材製材品	6.3	0.0	△ 6.3
	構造用集成材	14.3	7.1	0.0
在庫 動向	国産材製材品	△ 6.3	△ 18.8	△ 18.8
	外材製材品	6.3	△ 6.3	△ 6.3
	構造用集成材	7.1	0.0	△ 7.1

国産材製材品の仕入れは6,7月の減少が8月には横ばいに、外材製材品は6月の横ばいが7,8月には、やや減少に、構造用集成材は6,7月の横ばいが8月にはやや減少に。

国産材及び外材製材品の消費は6,7月の横ばいなしやや増加が8月にはやや減少に、構造用集成材は6,7月の増加が8月には横ばいに。

国産材製材品の在庫は減少傾向で推移、外材製材品及び構造用集成材は6月のやや増加が8月に向けやや減少に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/6月	7月	8月
受注	12.5	12.5	12.5
加工	25.0	25.0	6.3
受注残	12.5	12.5	6.3

受注、加工及び受注残は増加傾向で推移。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き) ・国産材は底を打たず様子見・当用買い、米マツも弱く様子見、集成材は契約分もありボリューム絞って仕入れ。国産材の消費はダラダラした感じ、外材も力強さに欠ける。イメージ的には絞り込みながら適正在庫を目指す。

・仕入はヒノキ下落傾向、スギ高止まり、外材横ばい。消費は国産材への樹種変更勧める。在庫は若干増大傾向。

・仕入はヒノキの価格が落ち着いてきた、だいたいどの製品も余分な在庫を持たなくていい状態。

・

(受注動向) ・受注は力強さ欠ける、加工も予定はあるが、ズルズルと伸びている物件多い。

・受注・加工順調に推移、出荷が大幅に遅れている。

・平時の受注状況に。

・